

生活科

1 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

○ICT 機器を効果的に活用することで、児童の気づきを記録し、伝え合いに役立てたり、学習のまとめや振り返りに役立てたりすることができた。

●教師が ICT 機器の活用方法、年間を見通して計画することで、児童が記録の蓄積を学習に役立てたり、次の学習に役立てたりできるようにする。

思考・判断・表現

○ICT 機器を活用し、動植物の写真を撮影して記録することを効果的に行うことができた。

●ICT 機器で観察カードを作成する学習と、手書きで絵を描いたり、文章を書いたりする活動が混同した。

主体的に学習に取り組む態度

○児童の思いや願いに基づいた学習活動（育てたい野菜、アサガオ）を設定することで、主体的に取り組む姿が見られた。

2 授業改善の骨子

- (1) 児童が具体的な活動や体験、伝え合いや振り返りの中で気づきの質を高め、自分自身、身近な人々、社会や自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気づき、生活上必要な習慣や技能を身に付けることができるようにする。 【知識・技能】
- (2) 児童が対象に繰り返し関わり、働きかける直接体験を重視し、そこから得た気づきを自分なりに工夫して表現する力を伸ばす。 【思考・判断・表現】
- (3) 自分と身近な人々、社会や自然に自ら働きかけ、思いや願いをもって取り組んだり、自分の生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】

生活科

フラン① 児童が具体的な活動や体験、伝い合いや振り返りの中で気付きの質を高め、自分自身、身近な人々、社会や自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付き、生活上必要な習慣や技能を身に付けることができるようにする。

- ・ 一人一人の気付きの質を高めるために、観察や制作など活動や体験の途中での自然な伝え合いを大切にし、よい気付きをその場で認めたり、全体にあげたりする。
- ・ 児童の気付きをICT機器を利用して記録し、伝え合いに役立てたり、学習のまとめや振り返りに役立てたりする。
- ・ 成長の様子や変化など自然の不思議さやおもしろさを実感させるために、実際に動植物を育てる活動を行い、繰り返し関わったり、育て方を工夫したり調べたりする体験を通して、動植物を大切にすることができるようにする。
- ・ 観察したこと（大きさ、長さ、色、形、におい、音、味、触感）を表現できる言葉を増やすようにする。特に、たとえる言語活動を重視する。
- ・ 気付いたことを比較したり、分類したり、関連付けたりして考えるようにするために、児童が自らの気付きを振り返ったり、互いの気付きを交流したりする場を、学習過程の中に効果的に設定する。
- ・ 生活上必要な習慣や技能については、体験活動（町探検・生き物の飼育等）に重点を置いて身に付けていく。

フラン② 児童が対象に繰り返し関わり、働きかける直接体験を重視し、そこから得た気付きを自分なりに工夫して表現する力を伸ばす。

- ・ 繰り返し対象と関わったり、試行錯誤して何度も挑戦したりすることができる学習活動を設定する。
- ・ 国語科等、他教科と関連付けて、様々な表現方法を体験し、どのように表現したらよいか自分なりに考えられるようにする。（ワークシート、個人・グループ発表、紙芝居、ペープサート、新聞、観察カード、ポスター、手紙など）1年生では様々な表現方法を意図的に体験させることを重視し、2年生ではその表現方法を自分で選択をし、より工夫できるようにする。効果的な表現方法として、ICT機器を活用する経験を1年生から積み重ねていく。
- ・ 体験したことや調べたことを伝える際には、幼児や異学年児童、保護者や地域の人々など様々な相手や場を設定し、相手意識、目的意識をもって伝える経験をさせる。
- ・ 自分の役割をしっかりと果たし、動植物の世話をできるように教師側から働きかける。

フラン③ 自分と身近な人々、社会や自然に自ら働きかけ、思いや願いをもって取り組んだり、自分の生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

- ・ 児童が身近な人々、社会及び自然と直接関わる活動や体験を設定し、児童の思いや願い（「～したい。」）を生かした学習計画を立てる。
- ・ 今までの生活経験や学習で積み重ねた知識を活用しながら、主体的に学習の課題・問題の解決に取り組めるようにする。
- ・ 学習過程では、児童が自分の思いや願いをもち、そのための具体的な活動や体験を通して、活動の楽しさや満足感、成就感を実感できるようにする。
- ・ 活動後の振り返りや学習課題の解決過程の中で児童の問いや疑問を引き出す発問を工夫し、児童の「もっとやってみよう」「もっと知りたい」「もっと関わりたい」という気持ちを高めるようにする。
- ・ 学校、家庭及び地域を学習の対象や場とし、そこでの児童の生活から学習を出発させ、学習したことが、学校、家庭、地域での児童の生活に生かせるよう活用の場を設ける。
- ・ 観察カードの見合い等を学級から学年、低学年へと広げることで学習意欲を高めていく。